

## 外国人人材の日本語能力を測るための取り組みとは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. さて、10日ぐらい前の各新聞に、外国人人材の日本語能力を測るために共通の指標・目安が取り入れられてきたという報道がありました。政府は、今年の4月から外国人人材の受け入れをどんどん拡大するという方針を打ち出しましたので、日本語能力を測る共通の指標・目安を取り入れることは素晴らしいと思います。この指標・目安を作り始めたのは、文化庁の中にある文化審議会です。これから先、日本語教育について様々な試験が行われますので、日本語能力についても共通の指標・目安を設けたいとの意図からのようです。
3. これを作る上で一番参考にしたのは、英語教育に携わっている方にご承知だと思いますが、「ヨーロッパ言語共通参照枠」です。ヨーロッパでは、文化的な統合や経済的な統合を果たすために、1970年代から語学教育に関して共通の目安を作っていました。それが、1990年代から2000年代にかけて形となった「セファール」つまり「ヨーロッパ言語共通参照枠」です。これは、ヨーロッパの大学・高校・中学校・小学校で非常に活用され、特に英語教育で盛んです。ヨーロッパの方々は非常に英語が上手ですので、この共通参照枠に基づいて先生方が教材を作り、教え方や試験を統一するなど一所懸命にやっています。日本でも、それを参考にして英語教育の共通参照枠を作ろうということになり、2020年からの英語教育大改革で取り入れられます。
4. 同様に、外国人に対する日本語教育も、「ヨーロッパ言語共通参照枠」を使って行ってはどうかという考えです。具体的には、基礎の段階と自立の段階と熟達の段階との3つに分け、基礎の段階をA段階、ことばのやりとりがうまくできる自立の段階をB段階、熟達の段階をC段階とします。そして、こんなことができればA段階、こんなことができればB段階、こんなことがで

できれば C 段階であると分けようと考えています。

5. 例えば、基礎の段階の A 段階は、A 1 と A 2 の 2 つに分け、相手がゆっくり・はっきり話してくれて、かつ助けがあれば簡単なやりとりができる場合を A 1 とします。また、日常の範囲の簡単な情報であれば、直接やりとりができる場合を A 2 とします。
6. 習ったことばを使って自分で行動できる自立の段階の B 段階も 2 つに分け、標準的な話し方であれば、身近な話題の主要な点が理解できる場合を B 1 とします。また、英語を母国語とする方と話して、互いに緊張せずにやりとりができる場合を B 2 とします。アメリカやイギリスの方が母国語として英語を使っていますので、その方々と緊張しないでやりとりができれば、B 段階の難しいほう、つまり B 2 までいったということです。
7. 熟達の段階の C 段階も 2 つに分け、ことばを探しているという印象を与えずに自己表現ができる・何かいいたいことを、次は何をいったらよいかと探しているという印象を与えないで自由に表現できる場合を C 1 とします。そして、いろいろな話しことばや書きことばから得た情報をまとめることができ、根拠や理由・ここが問題だよという論点も一貫した方法で再構築できるのが、一番素晴らしい C 2 です。
8. 今までお話してきたのは、ヨーロッパで使われている言語についての共通した参照枠、フレームワークです。基礎の段階と自立の段階と熟達の段階があり、これが日本での 2020 年度からの英語教育に大いに活用されます。また、最初にお話させていただいた外国人人材の日本語能力を測る共通の指標・目安としても整備されてきています。外国人の方の受け入れ拡大に備えたいというのが、文化庁や政府の方針です。これを我々日本人や日本側も大いに勉強して外国の方々を迎えましょうという話でしたので、ご紹介させていただきました。言語には基礎の段階・自立の段階・熟達の段階があるというのは、素晴らしい考えだと思いますので、ぜひ参考にいただければと思います。